

二〇〇八年九月六日(土曜日)にPUMP大阪店でリードコンペが行われた。例年行っている「ウォールマスターカップ」である。

今年例年より一カ月早く開催した影響なのか、国体前の開催の影響なのか、例年になく大勢の参加者で大会が行われた。カテゴリはオープン男子、ミドル、ビギナー、そして女子クラスの4カテゴリで区切られ、各地から多くの選手が参加した。最近のボルダー人気からリードコンペの参加者数の不安もあったが、申込を始めてみると意外に申込が多く、オープン男子、ミドルクラスが定員オーバーと過去にない申込が殺到した。そして例年少ない女子クラスでも定員いっぱい(20名、ビギナーは定員に達しなかったものの28名の申込があり、最終的には100名の参加者がエントリーした)キャンセルもあり当日は最終的に91名)コンペは各クラス予選2本を行い、その成績の上位5名ほどが決勝に進むという進行。予選ではビギナークラスを除く他クラスはオンサイト、リードクライミングで行われ、ビギナークラスのみ、フラッシング、トップロープクライミングで予選が行われた。

予選だがビギナー1本目は垂壁ボルダー壁をロープで登り、そこからトップロープでアーチへ入って登っていく課題。アーチはハンドルホールなどがあり、ぶらぶらと登っていくのだがフットワークも重要となる。この課題ではロー

2008 WallMasterCup ウォールマスターカップ

プ登りで苦戦したり、後半で力尽きる選手もいたが、大半の16名が完登した。2本目の課題では決勝進出者選考の為、若干(?)難しい課題となり、大半の選手が真ん中辺りで敗退となったが、田代拓也が最終ホールド2手手前まで行き奮闘の2位通過。そして最終ホールド1手手前と惜しくも完登を逃した三城英昭が1位で予選を通過した。

ミドルクラスでは参加者が定員を超えた23名が参加。予選1本目は100度壁で行われ各選手が奮闘。1本目ということもあり半数近い9名の選手が完登という結果になった。続いての2本目は鬼門となり、中盤に用意された核心ホールドを誰一人超えることができず、完

登者0名という結果に終わった。さらに1課題目を1位通過の9名の内、半数以上の6名が1ピン目のクリップを見逃して登ってしまい失格という結末に。決勝進出候補の大半がここで消えてしまった。その為、1本目を16位で通過な

がらも2本目で1位をとったホームジムの西沢昭則。そして1本目完登でクリップを見逃さなかった寺西五和夫、田中一暢、そして十一才の亀山凌平の3名が決勝へ進出となった。

女子クラスでは近年以上の申込があり、20名の選手が集まった。気になる予選だが1課題目から立体垂壁で行われ、下部からバランス、ホルドの悪いルートを登っていく。今回は1課題目から「登らせる課題」ではなく「順位をつける課題」設定となり、大半の選手が中盤あたりで敗退となった。中井知花、尾上彩、平井悠希の3名が最終ホールド一手手前まで行ったが残念ながらフォール。完登者は出なかった。そして予選2課題

は全選手の度肝をぬいた垂壁のジブスのカチカチバランスルート。オブザベの時から困惑の声がある中、予選が行われた。

カチ系ルートの得意な女性と云えど、このルートは難しかった(意外だった)為か、ほとんどの選手が中盤を抜かれなかった。そして優勝候補の尾上彩、平井悠希も後半に入るところで敗退となった。唯一最終面まで登ったのは中井知花。最終ホールド一手手前まで登り、会場を沸かせてくれた。そして全カテゴ



リーのなかで一番ツワモノが集まるオープン男子。昨年は定員割れだったが今年は定員オーバーの25名で競技が行われた。今回このクラスでは樋口純裕や中原栄、水野秀晴らなどツワモノも集ま

り、若干レベルの高い予選となった。予選1本目は参加者の期待を裏切るスラブで行われ、制限時間4分という短いなか、ほとんどの選手が時間に焦りを感じてスリッパやすっぽ抜けでのフォールが目立った。そしてこの課題、最後はマントルで終了なのだが最後は時間との勝負。完登した選手は樋口純裕、中原栄、水野秀晴、山本ユースケ、佐藤貴洋の5名のみとなった。

2本目では100度壁に用意されたシンプルな課題なのだか中盤の核心、そしてその次の準核心で大半の選手が力尽きた。結局この課題を完登した選手は優勝候補でもある樋口純裕、中原栄の2名のみ。それも余裕を持つての完登で見せてくれた。

(残念ながら予選風景の写真はありませんので。)

exhibition エキシビション

予選終了後は選手の休憩、そして決勝準備(集計)もかねて空き時間にエキシビジョンを開催した。毎年スピードクライミングを開催していたが、今年は少し色

を変えて、「ロープ早登り」として開催してみた。スラブから垂壁へと斜度の変わる壁を終了点から、ぶら下げたロープを手で手繰り登っていく速さを競う、腕力や登るタイミングも重要なポイントとなる競技(?)。

今大会の成績には直接関係しないエキシビジョンではあるが、スピードの速い選手上位3名に賞品も用意して自由参加で開催してみた。



簡単にロープを手繰って登っていくだけではタイムが出ないのが不思議。力んで壁を大きく蹴って勢いをつけると身体が壁から離れて空転。逆に足の蹴る力を抑えると腕に相当な負担がかかり早く登れない。ロープの手繰りと足の壁をかき込むような蹴り具合が重要となってくる。ちなみに最初にお手本で登ったスタッフは悪い例を踏まえた登りで26.46秒というタイム。

エキシビジョンには33名の選手が参

加したが、さすがに中、小学生など10代の選手はロープ手繰りに手間取り40秒台と結果が残せず、女性参加者も同じく30秒台という結果に終わった。そんな中でビギナークラスの三城英昭が12.62秒という高タイムを記録。タイム的に3位のタイムである。上位1位、2位の両名はオープン男子となり、やはり他クラスとの力の差を見せている。

2位 浅田史樹 11.34秒。そして
1位 梅村智己 10.88秒。ただ
1人の10秒台でトップに立った。

決勝へ 向けて

エキシビジョンをはさんで、15時を回ったところで決勝進出者が発表となった。ビギナークラスからは中島研治、坂本朱里、松本健司、田代拓也、三城英昭の5名が決勝へ進んだ。そして予選2本目で波乱のあったミドルクラスではクリップミスをしてしまった選手が全員予選落ちとなり、西沢昭則、田中一暢、亀山凌平、寺西五和夫の4名が決勝へ進出した。女子クラスでは新城綾那、山本樹里、平井悠希、尾上彩、中井知花の

5名が決勝へ。
オープン男子は大分からの参加、佐藤貴洋、を始め、山本ユースケ、水野秀晴、そして予選2課題を完登の中原栄と樋口純裕の5名が決勝へ進んだ。



決勝は全クラス オンサイト リードクライミングで行われる。セッターからの若干の注意点を聞きながら5分間のオブザベーションが各クラス同時に行われた。このあとは全選手がルートを見られない場所に隔離となるのでこの5分間が順位を左右するといっても過言でないほど重要な時間となる。

そして 決勝戦

ビギナー決勝は一番傾斜の強い壁で行われた。今回ルートが難しく、5名進出した選手のほとんどが第1核心の小ハングでの箇所で敗退。持ちにくいガバホールドと足の悪いバランスで力を吸い取られたようだ。この小ハングを超えた選手は抜け口のホールドをタッチで落



ちた田代拓也を含め3名のみとなった。予選4位通過の中島研治は小ハングを超えるも次へ繋がる遠いホールドが取れず2位で競技を終了。この遠いホールドを保持し、2手進んだ三城英昭が優勝となった。同時に開始されていたミドルクラス決勝では、十一才の亀山凌平が奮闘も中盤の左トラバースで敗退。西沢昭則も同じ結果となった。トラバースを超えるると下にクライムダウンのパス

ートが出てくるが、ルートを読みきれなかったのか、力を出し切ってしまったのかクライムダウンを仕切れないで寺西五和夫、田中一暢の両名が同ポイントでフォール。予選のポイントから寺西五和夫の優勝がきまり、田中一暢は2位となった。(写真は決勝を登る亀山凌平)



続く女子クラスではミドルクラスと同課題で決勝が行われた。(ただ、最終面のゴール場所はミドルと異なり、ミドルの終了点から右へ4手ほどトラバースして終了) 女子も鬼門核心があり、ミドル同様にトラバース箇所で新城綾那、山本樹里が敗退。そして問題の鬼門となる核心。トラバースし終わった時の一手。カンテ箇所でアンダーから遠いカチにデッド(スタティックにいく正解ムーブがあったが読みにくく、全員がデッドで手をだした。) していくムーブで平井悠希、そして優勝候補の尾上彩がホールドを触るも保持できずに敗退。そして予選

1位通過の中井知花も同じ箇所でもさかの敗退。上位3名が同高度で決勝を終えた。順位は予選のポイントから中井知花が貫禄の優勝。昨年優勝した尾上彩は2位となった。(写真 決勝 平井悠希)



(写真← 決勝 中井知花)



オープン男子決勝では40手からなるロングルート。中盤に右下へとトラバース・クライムダウンする核心があり、そこを超えるると小ハングを超えて左へ登っていく第2核心。後半の最終面は傾斜がないが細かいホールドと終了点前のフットホールドの乗り込みが核心となる。決勝では、最初の核心、右へのトラ

バース・ダウンで佐藤貴洋、山本ユースケが敗退。3番手の水野秀晴はそこを越え、小ハングをクリアしたものの、その先でフォールとなった。続いている選手。予選1位通過の樋口純裕はトラバース・ダウンも危なげなく通過。そして小



ハングも余裕を持って通過しそのまま最終面へ。後半で少し疲れを見せたものの見事に完登。すばらしい登りで歓声が沸いた。そして最後に登場の中原栄、やはり中盤のトラバースを余裕で登り



後半まで繋げる。最終面まで余裕を持つての登りで観客も完登を期待するも、最終ホールドを取りにいくムーブでフッ

トホールドへの乗り込みがうまくいかなかったのか、まさかの終了点タッチでフオール。この瞬間に中原栄の2位、そして樋口純裕の優勝が決まった。

表彰式 おめでとう

ビギナークラスより表彰式が行われた。残念ながら優勝の三城英昭は遠方からの参加で飛行機の時間のため表彰式の時には会場を後にしていた。



写真は右から田代拓也、中島研治。ミドル表彰式は左写真。右から亀山凌平、寺西五和夫、田中一暢の上位3名。



女子クラス表彰式は左写真。向かって右から平井悠希、中井知花、尾上彩の上位3名となる。



オープン男子表彰式は左写真。向かって右から水野秀晴、樋口純裕、中原栄の上位3名。



今回はたくさんのご参加をありがとうございます。例年より参加者が多く、混み合った予選となりましたが、暑い中お疲れ様でした。来年は・・・どのようなコンペ開催となるか分かりませんが、ぜひ、次回コンペがある際にはご参加ください。

今回は参加者が多いこと、順位をつけることを優先した為、例年より若干予選が難しい課題となっております。各クラスの予選、決勝は当分は残っていますので、ぜひリベンジしてみてください。

主催：フロンティアスピリッツ

PUMP大阪店

大阪市西淀川区中島 1-13-23

電話 (06) 6475-4406

文：たかやまん

写真：河野誠一